

**コンゴ(民)月例報告**  
**政治関連**  
**2017年1月**

**主な出来事**

- 14日、MLCを中心とする野党プラットフォーム「Le Front pour le respect de la Constitution」は12月31日合意への署名を行った。
- 15日、メンデ・メディア大臣兼政府報道官は、14日夜から15日朝にかけ、3年前からウガンダに難民として滞在している元 M23 兵士が、ウガンダとの国境に近い北キブ州イシャシャに侵入したと発表。これに対しウガンダ政府は、コンゴ(民)側の主張を否定した。
- 19日、ウガンダ政府は、ウガンダに宿営している元M23兵士の逃亡が発生していることを発表した。
- 19日、サス・ンゲソ・コンゴ(共)大統領は、側近の親族(コンゴ(民)在住)の通夜に列席するためキンシャサを訪れ、午後には、コンゴ・カトリック司教会議(CENCO)、パディバンガ首相、シディク MONUSCO 代表らと、個別に会談を行った。
- 23日～24日、北朝鮮を含む8か国の大使によるカビラ大統領への信任状捧呈が行われた。
- 24日、チセケディ UDPS 党首は、検診のため、ンジリ・キンシャサ国際空港からブリュッセルに向けて出発した。
- 27日、北キブ州ルチュル地区でコンゴ(民)国軍(FARDC)のヘリコプター2機が墜落、乗組員(外国籍)や FARDC 将校らが負傷、数名が行方不明となっている(その後3名の死亡が確認された)。
- 28日、12月31日合意の個別事項付属文書にかかる署名式が行われ、ウテンビ CENCO 議長が協議の現状を報告、同日の署名は行われたい旨発表した。

**1. 内政**

**(1)大統領多数派(MP)が選挙対策センター(Central Electorale)を始動**

・9日、大統領多数派(MP)は、一連の選挙対策のためのセンターを始動、市内ホテルで発足式を行った。

**(2)12月31日合意に基づく合意フォローアップ国家評議会(CNSA)の構成が決定**

・23日、コンゴ・カトリック司教会議(CENCO)が調停して大晦日深夜に署名された12月31日合意に基づいて設置される国家フォローアップ評議会(CNSA)28名のメンバー構成が決定。大統領多数派(MP)から9名、野党プラットフォーム「Rassemblement」から6名、10月18日合意に署名した野党から4名、野党プラットフォーム「Front pour le respect de la Constitution」から4名、Opposition Republicaine から2名、市民社会から3名が選出される。また、3名の副議長ポストは、MP、「Front pour le respect de la Constitution」、10月18日合意に署名した野党からそれぞれ1名ずつ選出され、議長(チセケディ UDPS 党首が選出)不在の場合は、3名の副議長が持ち回りで議長ポストを担う予定。

**(3)12月31日合意に基づく個別事項付属文書**

・28日、12月31日合意の個別事項付属文書にかかる署名式が行われ、ウテンビ CENCO 議長が協議の現状を報告、同日の署名は行われたい旨発表した。ウテンビ議長によると、首相の指

名、大臣・副大臣ポストの配分、12月31日合意の実施過程における CENCO 関与の有無ないし関与のあり方の3点が同日の署名の障害となっている。

#### (4)野党の動向

##### ア MLC が12月31日合意に署名

・14日、MLC を中心とする野党プラットフォーム「Le Front pour le respect de la Constitution」は12月31日合意への署名を行った。ベンバ党首は13日、「コンゴ(民)における歴史的な民主的政権交代を実現するため」あらゆる政治的イニシアティブを呼びかける旨の書簡をハーグから発出、バザイバ MLC 幹事長は、「Le Front」による政治合意への署名はベンバ MLC 党首の要望によるものと説明した。

##### イ チセケディ UDPS 党首がブリュッセルに向けて出国

・24日午前6時、チセケディ UDPS 党首(84歳)を乗せた自家用機は、ンジリ・キンシャサ国際空港からブリュッセルに向けて出発した。前日(23日)夜、UDPS はコミュニケを発表し、「チ」党首のブリュッセル行きは以前から予定されて検診のためと説明した。

## 2. 外交

### (1)サス・ンゲソ・コンゴ(共)大統領がコンゴ・カトリック司教会議(CENCO)と面会

・19日、サス・ンゲソ・コンゴ(共)大統領は、側近であるオケンバ顧問のコンゴ(民)在住親族の通夜に列席するためキンシャサを訪れ、午後には、コンゴ・カトリック司教会議(CENCO)代表と、市内ホテルで面会、CENCO による政治対話の調停を奨励した。「サ」大統領はその他、バディバンガ首相、シディク MONUSCO 代表らと、個別に会談を行った(19日付 Actualite.cd)。

## 3. 東部及び大湖地域情勢

### (1)元 M23 兵士がコンゴ(民)領内に侵入

・15日、メンデ・メディア大臣兼政府報道官は、14日夜から15日朝にかけ、3年前からウガンダに難民として滞在している元 M23 兵士から構成される2縦隊(約200名)が、ウガンダとの国境に近い北キブ州イシャシャ(ゴマ市の北東約155キロ)に侵入し、コンゴ(民)国軍(FARDC)が対応したと発表した。これに対しウガンダ政府は、コンゴ(民)側の主張を否定、また MONUSCO 軍報道官は、本件に関する確固とした情報は得られていないと述べた。

・19日、ウガンダ政府は、コンゴ(民)領内に元 M23 兵士が侵入したとされる件に関する新たな発表を行い、ビハンガ軍事訓練学校に宿営している元 M23 兵士の逃亡が発生していることを報告した。これによると18日、ビハンガから抜け出した101名の元 M23 兵士を乗せてコンゴ(民)方面に向かっていた4台の車両を捕捉、乗っていた全員を逮捕。7日前には、ビハンガから40名の元 M23 兵士が逃亡しており行方不明となっている。

### (2)北キブ州ルチュル地区でコンゴ(民)国軍のヘリコプター2機が墜落

・27日、北キブ州ルチュル地区でコンゴ(民)国軍(FARDC)のヘリコプター2機が墜落した。2機は元 M23 兵士の偵察を行っていたもので、乗組員(外国籍)や FARDC 将校らが負傷、数名が行方不明となっている(28日付 Radio Okapi)。

・31日、FARDC は会見を行い、行方不明になっていた乗組員(外国籍)2名と FARDC 将校1名の死亡が確認されたと発表した(31日付 AFP)。

## 4. その他地域情勢

### (1) 中央カサイ州カナンガ市でンサプを信奉する民兵集団53名が釈放

・31日、中央カサイ州(旧西カサイ州)カナンガ市で、伝統的酋長(chef coutumier)のカムウィナ・ンサプ(Kamwina Nsapu)を信奉する民兵集団で、約2か月前から当局に勾留されていた53名(う

ち10名は未成年者)が釈放された。釈放の条件として、「今後一切、反抗的な活動を行わない」という誓約書への署名が求められた。10名の未成年者はユニセフ・カナンガ事務所に引き渡され、再統合センターに収容される。

## 5. その他

### (1) ヒューマン・ライツ・ウォッチの Sawyer 中部アフリカディレクタが再度国外退去処分

・20日、米人権 NGO ヒューマン・ライツ・ウォッチの Sawyer 中部アフリカディレクタ(元コンゴ(民)事務所長)が、再度コンゴ(民)から国外退去処分になったと自身のツイッターで発表した。同ディレクタは13日からコンゴ(民)東部に滞在していたが、ビザの取り消しを受けて、コンゴ(民)から出国した。

・メンデ・政府報道官によると、Sawyer ディレクタは、虚偽の情報に基づいてビザを申請した(23日付 AFP)。

### (2) 北朝鮮大使が信任状を奉呈

・23日から24日にかけて、スウェーデン、独、ギリシャ、エジプト、南ア、モロッコ、EU 及び北朝鮮大使によるカビラ大統領への信任状捧呈が行われた。新たにコンゴ(民)に着任した北朝鮮の Kim Myong Sik 大使は 1965 年 3 月 20 日生まれで、平壤の金日成大学を卒業。

### (3) 国連人権合同事務所(UNJHRO)が2016年のコンゴ(民)における人権状況を分析

・25日、国連人権合同事務所(UNJHRO)は、2016年のコンゴ(民)における人権状況に関する分析を発表、同事務所で扱った人権侵害件数は5190件で、2015年から30%増加したと報告した。また、昨年9月と12月、治安当局が数十名を殺害したのを含め、治安当局による裁判外(extra-judiciaires)の対処による被害者は480名であった。人権侵害増加の理由として、政府による政治空間の制限と、武装勢力による活動の増大を挙げている。武装勢力による殺害は718名で、そのうち230名は、北キブ州で発生している、ADFによるとされるもの。